

公益社団法人日本連珠社 平成27年度事業報告

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』参照

平成27年度は、日本連珠社の役員と普及推進委員を中心に会員が【公益事業展開】をより深く理解・認識し、労苦を惜しまず実行していただいた1年間でした。公益目的事業展開に関わられた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

日本連珠社の【公益事業目的】の一つに、『定款』第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。平成27年8月、ロシア共和国スズダリで開催された「第14回連珠世界選手権戦」で、日本選手団（石谷信一九段、岡部 寛八段、阪本嵩山七段、中山智晴七段、卯坊六段、小山 純五段、真野芳久五段、神谷俊介四段、舘 雅也四段、）9名が参加し、A T戦で、神谷四段4位、岡部八段5位に入賞し、次回世界戦A T枠を2枠日本が獲得し、Q T戦、B T戦においても20歳代の若手選手が活躍したことを素直に賞賛したいと思います。

国内最大の【公益事業】である第53期全日本連珠名人戦は、名人・中村 茂九段が挑戦者長谷川一人九段を3連勝で下し名人位を防衛し、26期目の名人位戴冠という実に凄まじい記録を継続しました。中村名人はT B S番組「天下一文道会」に出演し【連珠】の広報に貢献頂きました。平成28年5月にエストニア国での「第11回連珠チーム世界戦」の国内代表選手を決める「第11期全日本連珠選手権戦＝愛称：珠王戦」も中村 茂名人が制覇し世界レーティング1位の健在ぶりを披露しました。A級に進出した各選手、珠王戦参加選手、またそれを支えた各支局長・支部長他、各地の連珠会関係者、珠友、選手にも称賛を贈りたいと思います。

インターネットは普及活動の施策上非常に有用であり、A級リーグ戦局譜公開や名人位挑戦手合いのライブ中継とくに大盤解説などが好評を博しています。各地の連珠会や公式戦にネット出身者が増加していますが、これらの連珠愛好者が会員になることは現時点では昨年度同様少ないのが実情です。メディアで継続して取り上げられることが連珠普及に最も効果的と考えられます。プレスリリースの継続発信など、広報に期待いたします。

こうした状況下、各地域で連珠公認指導員を中心に、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続されたことは喜ばしいことです。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

◇定時会員総会

- ・平成27年5月23日(土)13:35～15:05 於：江東区総合区民センター7階第4会議室
- ・出席会員数95名（うち委任状75名、会員総数117名、出席率81%）
- ・議長には三森政男氏が選ばれ、書記に飯尾義弘氏、岡部 寛氏、久保出美氏、3名を指名後、議事録作成者に久保出美氏を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、飯尾氏・岡部氏・久保氏の3名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・役員選任候補者（理事15名・監事2名）全員がほぼ満票で選任されたが、総会直前の第2回理事会で樋渡喜久磨氏が任期満了に伴い理事就任を辞退されていたので、選任理事数は14名となった。
- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2015年8月号に掲載し、平成26年度事業報告・収支決算、平成27年度事業計画・収支予算案、役員の選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

【理事会に関する事項】

(1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略）平成27年4月25日(土)～同5月2日(土)

- ・出席役員 理事14名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
- ・議事録作成者：久保理事（三森理事長指示）
- ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「平成26年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳報を割愛します。

(2) 第2回理事会 平成27年5月23日(土)10:20～12:25 於：江東区総合区民センター7階第4会議室

- ・出席役員 理事14名（理事総数14名）、監事1名（亀井、監事総数2名）
- ・議長：三森政男理事長

公益社団法人日本連珠社 平成27年度事業報告

- ・書記：飯尾理事・岡部理事・久保理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事14名、監事1名
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2015年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 平成27年5月23日(土)15:25~16:45 於：江東区総合区民センター7階第4会議室
- ・出席役員 理事14名（真野芳久新理事追加、理事総数14名）、監事1名（亀井、監事総数2名）
 - ・議長：三森政男理事長（第1号議案役員内特別職の選任決議まで、久保理事が司会進行）
 - ・第1号議案議決で、理事長に三森氏、副理事長に①飯尾義弘氏・②河村典彦氏・③田所豊齊氏（理事長代行順）、事務局長に久保出美氏が選任された。
 - ・書記：飯尾理事・岡部理事・久保理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事14名、監事1名
 - ・第2号議案で、理事職務分掌の見直しや各委員会委員長の選任が決議され、現行通りとなった。
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2015年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会 平成27年10月31日(土)13:30~16:50 於：江東区総合区民センター6階第1会議室
- ・出席役員 理事10名（理事総数14名）、監事2名（監事総数2名）
 - ・議長：三森政男理事長、書記：久保理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事10名、監事2名
 - ・第2号議案議決で、今後公式棋戦終了後、棋戦実施責任者が、記録委員長・機関誌編集委員長・広報委員長に【棋戦成績・結果】を報告することが義務付けられた。義務を怠ると発生する付与権利は一切無い。
 - ・議事録を全役員（理事14名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2015年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (5) 第5回理事会（定款第38条決議の省略） 平成28年3月12日(土)~同3月15日(火)
- ・出席役員 理事13名（小林高一理事は2月4日急逝）全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：久保理事（三森理事長指示）
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の平成28年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を機関誌『連珠世界』2016年5月号に掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

(1) 総務委員会

- ・三森理事長指示の下、業務委託契約先社・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、会員総会と理事会に関する資料等の作成、及び発送手配等、総務活動を遅滞なく行なった。
- ・国及び指導官庁からの書類などの提出要請に、業務委託契約先社・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、遅滞なく適切に回答し、HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
- ・事務局は久保理事のもと、毎月の機関誌の送付者・部数管理及び珠友や一般人からの各種問い合わせに遅滞なく回答し、段位免許状作成・発送、依頼を受けた普及資料などの発送他、円滑な事務運営に努めた。
- ・小林高一理事が、6月に樋渡前理事から連珠関連図書などを引き継ぎ、整理保管することとなった。

(2) 普及推進委員会

- ・本会会員がリーダーとなって各地で連珠普及・指導や競技会の開催や指導を行なっている。おもな各地の連珠会はホームページ掲載のとおり。
- ・会員がボランティアで用具を提供し定期指導を行ない、連珠の普及活動に努めた。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施し、公益目的事業を継続推進し、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・公的施設への継続した機関誌の贈呈や上記ボランティア活動に対する、感謝の手紙などを受け取っている。

(3) 財務委員会

- ・三森理事長指示の下、財務委員（久保・安本）間で協議し、業務委託契約先社・本郷税理士法人の事務業務支援を得て、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、資産及び負債勘定科目を適宜増やし、平成28年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。また収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。

公益社団法人日本連珠社

平成27年度事業報告

(4) 広報委員会

- ・委員長を永く務めて頂いた、小林高一理事が平成28年2月4日に急逝した。以後空席となっている。
- ・メールマガジンの週刊発行 … 以前より日本連珠サービスの発行、広報委員会協力で行ってきた。委員長不在のため、発行を12月までで休止した。
- ・過去の書籍・雑誌のデータ化 … 『連珠世界』を始め過去の連珠雑誌・書籍のデータ化(PDF)を実施中、完璧なデータを目指して努力を進めていたが、委員長不在のため、1月以降休止している。
- ・プレスリリースとして、名人位挑戦手合い、A級リーグ戦、珠王戦、などの取材依頼を、多くの報道機関へメールで発信したが取材はなかった。委員長不在のため、1月以降休止している。
- ・日本連珠サービスの協力を得て「河北新報」「陸奥新報」などへの詰め連珠を継続して出稿した。

(5) 国際委員会

- ・第14回連珠世界選手権戦が平成27年8月にロシア国スズダリで開催され、日本から総勢9名が参加し、AT4位・5位、BT1位・5位の結果を残し、全員が健闘した。
- ・世界戦の速報をはじめ、連珠ニュースレター、日本連珠社HPなどに連珠情報を発信した。
- ・開局規定の検討に関して、各国のメンバーと意見交換を行った。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、718号から729号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、【政府公報】の掲載、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事をほぼ毎月掲載した。

(7) メディア委員会

- ・活動内容の主なものとしては、公式HP上において、本部主催大会予告・結果報告(速報)、過去の名人戦記録・連珠古書関係のコンテンツ整備・更新等を中心として活動を行なった。
- ・その他の活動としては、各委員会の要請による公式HPへの情報公示を行なった。

(8) 珠規審議委員会

- ・『連珠ノールブック』に明文化されていない問題提起事象の問い合わせに、その都度対応して回答した。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請を公益社団法人日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査認定した。例外事案発生に際しては、委員会の諮問決議を理事会議案として提議した。
- ・平成27年度昇入段者数は下表の通り。公式棋戦優勝者の昇入段申請の減少傾向が続いている。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	延計
平成27年度	1	0	1	0	4	4	1	3	5	19 (0)
平成26年度	0	1	1	2	1	2	4	2	3	16 (0)
平成25年度	0	0	0	3	4	2	1	1	4	15 (0)
平成24年度	0	1	2	0	1	3	4	0	5	16 (0)
平成23年度	2	0	0	4	3	2	2	4	4	21 (0)

(10) 名人戦運営委員会

- ・第53期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成27年9月に浜松市の<ホテル米久>で実施した。
- ・同名名人位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。ライブは好評であった。
- ・名人中村 茂九段が3連勝で、挑戦者長谷川一人九段を破り、全日本連珠名人位(第53期)を防衛した。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をRIFに報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・公式棋戦の結果報告・棋譜報告が無い場合には、国際レーティングに反映できない。平成27年度第4回理事会で、棋戦ごとの運営責任者が報告義務を負うよう、決議された。

(12) 詰連珠通信戦委員会

公益社団法人日本連珠社 平成27年度事業報告

- ・通信戦：第98回、99回の通信戦大会を実施した。『連珠世界』誌上で成績を発表した。
- ・詰連珠：通常の活動として、月例詰め連珠を始め、天狗道場、特別昇入段テスト、四追いコンクール、限珠案コンクールを開催し、コンクールの結果及び解答者の成績を『連珠世界』誌上に発表した。また、2015年に発表された全ての詰連珠関連の創作物から、第九回詰連珠大賞の選考を行った。

(13) 特別表彰制度

- ・平成27年度は該当者1名、森山豊明八段（群馬県前橋市）を特別表彰した。